

新明和工業はゴミ収集車の積載量などを常に測定し、効率の良い巡回や車両保守を支援する事業を2025年に始める。バス運行システムを手がけるレシップ（岐阜県本巣市、杉本真社長）と共にゴミ収集システムを開発する。積載量に余力があ

る車両に対し、満載車の代替として収集指示・案内を行うことが容易になる。ゴミ収集の輸送力や人材が不足する中、自治体や事業者が提案し30年までに500台のシステム納入を目指す。

車両にリサイクルの装置を取り付け、走行位置や積載量、ゴミを押しこむプレートの稼働回数などを測定して指令所にデータを送信する。指令所は複数車両の積載量を常時把握し、余力ある車両にゴミが多い収集所への巡回ルート変更・案内を行なう。

車両にリサイクルの装置を取り付け、走行位置や積載量、ゴミを押しこむプレートの稼働回数などを測定して指令所にデータを送信する。指令所は複数車両の積載量を空、中程度、満載の3段階で示す。プレート稼働回数データからプレートへの負荷を計り、適切な保守時期も通知する。通学時間や滞滞を避ける巡回ルートや作業報告書の作成も自動化する。

指揮者が不足しても、1カーラーが保守や安全同行する手間をなくし、ゴミ収集車両サービスを共同開発することで合意した。初期費用のないサブスクリプション（定額制）などの価格設定も検討し、納入拡大を図る。

## 新明和、積載量を常時計測

と開発システム

# ゴミ収集車運用支援

レシップ

自治体のゴミ収集を支援する（新明和のゴミ収集車）民らと共有する設定もある。

新明和工業が自治体に納める新車や納入済み車両から提案する。自治体がシステム会社に個別仕様で発注する手間をなくし、ゴミ収集車両化する。熟練の乗員や1カーラーが保守や安全同行する。

このほか車両の位置や到着時刻を

の到着時刻や位置を知らせる運行システムなどで成長している。路線バスとゴミ収集車は決まったルートを巡回し、輸送力や人材も不足している共通性があり、両社は自治体を顧客とする点も一致し、事業の親和性が高い。

そこで独自技術を共有し、ゴミ収集車の支援

